

第40回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：令和2年9月18日（金） 14：00－16：00

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、常田座長代理、大島委員、関委員、永田委員、山崎委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

松尾局長、岡村審議官、川口参事官、吉田参事官

(3) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課

藤吉課長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）

國中理事

佐々木理事

宇宙科学研究所

藤本副所長

4. 議事要旨

(1) 宇宙科学プロジェクトの進捗状況について

JAXAから資料1を用いて説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。

（○：意見等 ●：事務局・文部科学省・JAXAからの回答）

○LiteBIRDと小型JASMINEの提案内容は良いが、それぞれどの程度遅れるのか。

●LiteBIRDについては、2028年が当初の見込みであったが1年程の遅れの見込み。小型JASMINEについて調整中であるが、引き続き科学的な価値はあると認識。

○フロントローディングに赤外線センサが含まれているのは大きな意味がある。技術の波及を考えていくべき。

●小型JASMINEを念頭に置き、海外での活用も考えながら、研究開発を実施していく。

○フロントローディングについて、出口のイメージを持って取り組むべき。

○Heraはプラネタリーディフェンスの意義がある。

○科学探査で得られた技術をどう波及するかが大事。

(2) アルテミス計画での科学について

JAXAから資料2を用いて説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。

（○：意見等 ●：事務局・文部科学省・JAXAからの回答）

○アルテミス計画の月面探査ミッションと科学的意義との関係について、採択された機器は何を目的としてどのような判断で選定されたのか。

●水資源を見つけることが主目的であるため、それに応じたセンサを選定。そのデータを科学的に使っていただくことは、科学技術コミュニティの検討を待ちたい。

○なんでも科学に結び付けるのではなく、資源探査を主目的に、科学でも役立つと説明すべき。

○月周回軌道への超小型衛星への利用について、人材育成への寄与を目指すがあるが、より視野を広げた議論をすべき。

○月探査・月利用に必要な共通インフラ的サービスの構築について、技術的な実現の道筋はあるのか。

●SLIMでの実証などもしながら進めていく見込み。

(3) 宇宙科学・探査プログラムの進め方について

委員からは、以下のような意見があった。

(○：意見等)

○中型についてコミュニティの意見も吸い上げつつ、戦略的に取り組むべき。

○複数のミッションをつなぐストーリーが必要であるが、そのために、ボトムアップと戦略的なトップダウンを組み合わせた議論が必要。

以 上